

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 米子工業高等学校

重点項目	地域を支える専門人材育成重点校	提出日	令和 5年 4月 21日
------	-----------------	-----	--------------

1 学校目標									
<p>1 心身の健全な育成と工業高校生としてのエチケット・マナーの実践</p> <p>2 キャリア教育による生きがいの創造</p> <p>3 持続可能な社会を創造し貢献できる工業人の育成</p> <p>4 地域ネットワークによる教育の実現</p> <p>5 向上心とワークライフバランスの実践</p>									
2 重点項目に係る目標・成果									
目標	成果								
1 米工の伝統を受け継ぐものづくり人材の育成	<p>1 タカオカ化成工業株式会社中村寿亨氏に環境エネルギー科1年生を対象に「自然再生エネルギーを使った企業のインフラへの取り組み」と題して講義を実施。生徒にSGDsへの理解と専門性の関連の意識付けを行うことができた。</p> <p>コロナ禍でも日々生徒はものづくりの技術向上に努めた。そして、各大会が中止になる中で、ものづくりコンテスト中国大会旋盤作業部門や全国マイコンラリー大会に出場。</p> <p>第一種電気工事士、第三種電気主任技術者などの難易度の高い資格を含め、多くの国家資格や検定試験に挑戦し合格した。</p>								
2 開かれた学校づくりの推進	<p>2 コロナ禍のために夏の中学生体験学習は中止になったが、秋の学校見学会はリモートで説明するなど実施方法を工夫して実施し、160名程度の参加者があった。出前授業は、コロナ禍で中学校1校だけ実施することができた。地域貢献（機械科のゴミストッカー提供とマチナカクリスタル、電気科のテクノボランティア、建設科のベンチ提供）等を通じて本校の取組を地域の人に理解してもらう活動ができた。</p>								
<数値目標>	<数値結果>								
1 ジュニアマイスター取得者は卒業生の30%以上を目指す。	<p>1 令和4年度ジュニアマイスター取得者</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>ゴールド</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>シルバー</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>ブロンズ</td> <td>18名</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>27名</td> </tr> </table> <p>卒業生の16.4% (27/165) が取得した。コロナ禍で資格試験の中止などで受験機会の減少や分散登校・臨時休校などで補習の確保ができなかったこと</p>	ゴールド	4名	シルバー	5名	ブロンズ	18名	計	27名
ゴールド	4名								
シルバー	5名								
ブロンズ	18名								
計	27名								

<p>2 第2種電気工事士卒業時取得者70%以上を目指す。</p>	<p>などから、意欲を高められない生徒がいたことが目標値より下がった要因と考えられる。</p> <p>2 第2種電気工事士取得者 令和4年度卒業生</p> <table border="0"> <tr> <td>電気科</td> <td>65.5% (19/29)</td> </tr> <tr> <td>環境エネルギー科</td> <td>83.3% (30/36)</td> </tr> <tr> <td>全 体</td> <td>75.4% (49/65)</td> </tr> </table>	電気科	65.5% (19/29)	環境エネルギー科	83.3% (30/36)	全 体	75.4% (49/65)
電気科	65.5% (19/29)						
環境エネルギー科	83.3% (30/36)						
全 体	75.4% (49/65)						
<p>3 実施事業</p>							
<p>【高等学校課事業】</p> <p>1 外部人材活用事業（社会人講師活用事業）</p> <p>(1) 電気工事の実技指導について 環境エネルギー科2年生を対象として、電業協会の協力を得て実施した。外部の技術者から小グループでの指導を受けることにより、短時間で生徒の技術が向上した。</p> <p>【独自事業】</p> <p>1 SDGsへの取り組み</p> <p>(1) チャレンジSDGs タカオカ化成工業株式会社中村寿亨氏を招き、環境エネルギー科1年生を対象に「自然再生エネルギーを使った企業のインフラへの取り組み」と題して講義を実施した。生徒にSDGsへの理解と専門性の関連の意思付けを行うことができた。</p> <p>2 ものづくり事業の充実</p> <p>(1) 高校生ものづくりコンテスト活動支援 日々技能の錬成に励むことで地域産業を担う人材育成に貢献できた。そして、旋盤作業部門では、中国地区大会に出場することができた。</p> <p>(2) 各種大会・課題研究への支援 コロナ禍のために、各種大会が中止または参加できなかったが、そんな中マイコンカーは全国大会に出場した。また、課題研究や部活動等を通じて、着実に生徒の技術レベルアップに繋がっている。</p> <p>(3) 技能五輪出場を目指す人財づくり 取り組む生徒がいなくて実施できなかった。引き続き生徒の意欲が引き出せるように声掛けを続ける。</p> <p>3 専門的資格取得の推進</p> <p>(1) 資格取得に対する支援 機械加工技能士の普通旋盤作業では3級を10名、2級を2名が取得した。そして、電気工事士では第二種を63名が取得し、難関の第一種を9名が取得した。また、事業外であるが超難関の第三種電気主任技術者にも8名の生徒が挑戦した。</p> <p>4 開かれた学校づくり事業</p> <p>(1) 中学生体験学習 令和4年度もコロナ禍によって中止になったが、11月に学校見学会をリモートで説明するなど実施方法を工夫して実施し、160名程度の参加者があった。また、11月下旬に中学生の保護者を対象に学校見学会を実施し、60名程度の参加者があった。</p> <p>(2) 出前授業 コロナ禍で開催することが難しかったが、電気科が中学校での出前授業を実施した。本校の生徒が説明することによって、中学生の専門高校への興味・関心を高めることができた。</p>							
<p>4 総合所見（成果・評価）</p>							

ものづくり事業の充実については、コロナ禍においても内容や実施方法を工夫して学校独自事業を行ったことで、多くの場面で生徒の技術レベル向上が果たせた。多くの大会で中止や出場辞退を余儀なくされたが、その中でも生徒は出来ることを見つけて前向きに取り組んだ。ジュニアマイスター取得者も昨年度より低下したが例年並みの水準を維持している。第二種電気工事士についても、各科の継続的な取り組みが功を奏している。

開かれた学校づくりについては、コロナ禍においても工夫しながら各科とも非常に積極的に取り組み、近隣の小中学校や自治会との充実した交流ができた。今後の継続が望まれている。

今後とも各事業を活用して、地域産業界の期待に応えられる地域を支える専門人材の育成に取り組んでいきたい。

※枚数任意